



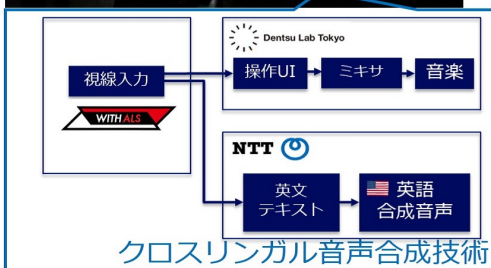
背景

24時間介護の必要な重度身体障がい者は、就業を含め社会参画を望んでも、コミュニケーション課題が壁となり、その実現は極めて困難です。また、家族を含め社会との断絶、孤独に苦しむ人も少なくありません。

成果の概要

現在は声が出ず、ほとんど身体も動かせないALS共生者が、本人の声色の合成音声で話し、アバターによる身体表現を実現しました。寝たきりのSMA共生者のICT機器操作を、6軸触覚センサを組み込んだ新しい操作デバイスにより容易し、社会へのアクセスビリティを高めました。

①豊かなコミュニケーションの実現



②豊かなつながりの実現



技術のポイント

- ALS共生者の過去の録画・録音から得た数秒の音声から、本人らしい声色の合成音声を生成。現在は発声できない方でも、声を失う前の録画や録音に音声が残されていれば、合成音声を作成可能
- 身体に生体情報を取得する筋電センサを装着し、自身の微細な筋活動によって得られる生体情報を操作情報に変換し、アバターの自由な操作を実現。非言語表現やゲーム操作に適用
- 少ない力でICT機器操作可能な、6軸触覚センサを用いたデバイス設計

この研究がもたらす未来

多様性が尊重され、共生する社会で、望む人すべてが自己実現でき、社会参画できます。

コラボレーションパートナー

一般社団法人WITH ALS、Dentsu LabTokyo、株式会社ハッピーブレイン

出展企業

日本電信電話株式会社

問い合わせ先

rdforum-exhibition@ml.ntt.com